

私立大学図書館協会 2006 年度第 2 回常任幹事会議事要録

日 時 2006 年 12 月 1 日（金） 午後 2 時～午後 4 時 25 分
場 所 龍谷大学 大宮学舎 西翼 2 階会議室
出席者 出席者名簿(p.1)参照

議事に先立ち、会長校挨拶の後、開会が宣せられた。議事進行は、会長校松井賢一
龍谷大学学術情報センター長が担当した。

また、会長校より、本日の議題が次年度の事業計画および予算について協議される
ことから、次期会長校の中央大学からも出席いただいているので了承願いたいとの提
案があり、異議無く了承された。

[報告事項]

1 . 会務報告

(1) 新規加盟校について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p. 5）に基づき、現在、西地区部
会に長浜バイオ大学図書館（9 月 11 日受理）と神戸ファッション造形大学図
書館（11 月 2 日受理）から加盟申込書が提出された。これによって 2007 年
度は、東西地区部会共に 249 校で合計 498 校になる予定であることが報告さ
れた。

(2) 未加盟校への勧誘について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p. 5）に基づき、10 月 12 日付で
加盟案内を送付したことが報告された。

(3) 加盟校への書類等の送付について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p. 5）に基づき、前回常任幹事会
以降に加盟大学図書館に送付した書類等について報告された。

(4) 会報第 126 号の刊行について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p. 6）に基づき報告が行われ、現
在 127 号（総会号）の刊行準備が行われていることが報告された。

2 . 東地区部会報告

東地区部会長校駒澤大学（奈良田）から配布資料（p.7～p.9）に基づき、8 月
から 11 月までの東地区部会会務報告が行われた。

併せて、毎年 6 月に開催されている東地区総会、館長会、研究講演会について
来年度当番校の国際基督教大学より授業の関係で日程が変更になる旨の連絡があ

り、12月中には決まる、との報告が行われた。

3．西地区部会報告

西地区部会長校久留米大学（熊谷）から配布資料（p.10～p.15）に基づき、8月から11月までの西地区部会会務報告が行われた。

4．委員会報告

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.16～p.17）に基づき、研究助成委員会、国際図書館協力委員会、協会ホームページ委員会報告が行われた。

また、研究助成委員会で審議、決定された2006年度、2007年度研究助成については、協議事項の中で協議をお願いしたい旨提案がなされ、了承された。

5．協会関連事項報告

（1）国公立大学図書館協力委員会報告

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.18）に基づき、委員会報告が行われた。

（2）平成18年度国立国会図書館長と大学図書館長との歓談会

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.18）に基づき、報告がなされた。

（3）国際学術情報基盤整備事業運営委員会

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.18）に基づき、運営委員会が開催されたが、本協会総会と日程が重なったため出席出来なかった旨報告が行われた。

6．その他

（1）第9回図書館総合展フォーラムの後援について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.19）に基づき、報告が行われた。

（2）国立情報学研究所主催 国際シンポジウムの後援について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.19）に基づき、報告が行われた。

（3）2006年度行事・会議予定について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.20）に基づき、報告が行われた。

[協議事項]

1．2006年度一般会計・特別会計収支状況について

会長校龍谷大学（甲野）から配布資料（p.21～p.25）に基づき、2006年度一般会計支出状況（11月30日現在）・第67回総会・研究大会収支状況（10月23日現

在)について提案説明があった。

特徴点について、以下の説明があった。

[一般会計]

収入について

新規加盟校による収入増(235,000円)、第67回総会・研究大会特別会計から残余金の繰入(6,024円)があった。

支出について

運営費のうち、通信費が加盟館への配布資料の増による予算超過(62,030円)

加盟校増による部会交付金の増(130,000円)

名簿刊行費の支出減(100,000円)

協会ホームページ有料サイト利用料について容量増(500MBから1GBへ:11月から)したことにより予算超過(10,500円)

があったことが説明された。

特別会計

「国際図書館協力基金特別会計」

国際シンポジウムの開催が来年4月に延期されたことから、収入の部では参加費(250,000円)が減額になり、支出ではシンポジウム運営費(750,000円)が未執行になる。

ただし、まだ、年度途中であるため執行額が確定していない予算項目も多く、3月の東西合同役員会では、ほぼ確定した決算書が提案できることが報告された。

また、p.24~p.25に参考資料として決算見込を付けている旨の説明があった。「第67回総会・研究大会特別会計」の収支状況については、これで確定となるが、参加者数が当初予定の300名を超えたことにより収入増となった。最終的に6,024円の残余金が生まれ、一般会計に繰り入れることになった。

協議の結果、提案どおり承認された。

2. 2007年度事業計画について

会長校龍谷大学(寺本)より配布資料(p.26~p.27)に基づき、2007年度事業計画について提案説明された。

提案にあたり、会長校(寺本)より次年度の事業計画は、次期会長校の中央大学のもとで執行されることになるが、事業の継続性と従来からの慣例により龍谷大学で作成したことが説明された。

2007年度事業計画(案)は、今年度の事業計画を踏襲しつつ、新たに(8)として情報の共有化を付け加える程度に留めた。状況認識等は前文に示した。

協議の結果、異議無く了承された。

3. 第68回(2007年度)総会・研究大会について

会長校龍谷大学(寺本)から配布資料(p.28~p.31)に基づき、開催日程、テーマについては、現在、当番校の立教大学で詰め作業が行われており、今回の提案は9月の東西合同役員会に提案されたものと変わっていない。

本日は、東西合同役員会の場で当番校の立教大学から提案され、保留になっている総会・研究大会への非会員の参加について協議願いたい。協議の素材としてp.30に(案)を作成したので参考にしていただきたい、との提案があった。

また、1月中旬に次年度当番校との引き継ぎを予定しているため、本日の審議結果を立教大学に伝える旨の説明があった。

提案の要旨は以下のとおり。

現在、文部科学省、国立大学図書館協会会長校、公立大学協会図書館協議会会長校を招待しており、国公立大学図書館協力委員会委員校(以下、委員校)を招待する必要は無いのではないかと。参加要請に留めたい。

ただし、午餐会、研究大会には招待する。

参加要請をするにしても、委員校(この場合、国立と公立)には、総会参加の資格がなく、総会後の基調講演からとする。

参加費(総会、意見交換会)とは、資料代と飲食代であるため委員校にも会員校と同額のご負担をいただく。

関連企業については、開催案内を送付するが、総会参加資格がないことから総会後の基調講演からの参加とし、協賛企業と一線を画すため、参加費等(総会、意見交換会、研究大会)を各1,000円ずつ増額する。

提案について、出された主な意見は以下のとおり。

協賛企業と関連企業の一線を画すことは理解できるが、私立大学図書館協会も構成員となっている国公立大学図書館協力委員会の委員の取り扱いには若干違和感がある。

意見交換会の実費徴収は良いと思うが、関連企業は少し高いのではないかと。

漠然と参加要請するのではなく、具体的に国立、公立を招待する目的を明確にする必要がある。

総会を東京で開催する場合と地方で開催する場合とでは、委員校の参加

も変わるのではないか。

業者については、展示ブースを設けないということにはなっているが、業者を排除した訳ではない。

今回は、総会テーマとの関係で業者の参加を認めようとしているので、今後、恒常化しようという提案ではないのではないか。

種々、協議の結果、本日出された意見を当番校に伝え、会長校と協議することになった。

4 . 2007 年度一般会計・特別会計予算（案）について

会長校龍谷大学（寺本）から配布資料（p.32～p.34）に基づいて、以下の説明と提案がされた。

予算（案）の作成にあたっては、事業計画（案）の策定方向に従い予算構築をしている。

[一般会計]

収入について

会費は 496 校とし計上している。

前年度繰越金は、今年度決算で確定した数字をいれることになる。

雑収入については、加盟館名簿を販売しないことから減額（20,000 円）とした。

支出について

事務費については、会長校が交代により必要経費が増えることから増額（100,000 円）とした。

通信費については、今年度支出超過になっており、支出状況を考慮し増額（100,000 円）とした。

協会賞費は規程により 4 件まで可能性があることから 4 件分計上している。協会賞審査委員会で決定すれば、件数に合わせて修正する。

部会交付金は、新規加盟校 1 校あたり 13,000 円の 10 校分を増額する。

協会ホームページ有料サイト利用料は、契約容量の増による増額（31,500 円）

I F L A 負担金については、値上げ（314 ユーロから 514 ユーロに）分の増額（38,000 円）

[特別会計]

《研究助成特別会計》

基本的には昨年度と同じで、繰り越しになっている部分を増額した。

《国際図書館協力基金》

2006年度国際シンポジウムの開催が4月延期されたことにより、2007年度は2回開催として収入、支出ともに予算計上している。

《総会・研究大会特別会計》

大枠として2006年度と同額を予算計上している。詳細については当番校の立教大学に東西合同役員会までに予算編成をしていただき、提案することになる。

協議の結果、了承された。

5. 2006年度研究助成について

研究助成委員会委員長（南山大学：栗山）より、11月30日開催の研究助成委員会で審議決定された2006年度および2007年度の研究助成について、別紙配布資料に基づき、以下のとおり報告、提案があった。

申込のあったのは、以下の3件であった。内容および審査結果は以下のとおりであった。

(1) 2006年度対象

テ - マ：大学間における図書館システムの統合とその可能性および効果についての考察

種 別：個人研究

応募者：中 林 雅 士（明治大学）

研究期間：2006年4月～2007年3月

申請金額：60万円

[審査結果]

1. 研究助成の採否

研究助成対象として採択する。

2. 研究助成金

申請のサーバー一式については、必要性は認めるが研究後の取り扱い、器材購入に助成した前例がないことなどから、購入費用ではなくレンタル（3年間：研究1年、成果公開2年）に変更していただき、その賃借料を年度毎に交付する。

3. コメント

図書館システムの統合の可能性およびその効果については、図書館界で

も関心が高く、この研究の成果が他の図書館にも有用なものとなることが期待される。統合に求められる仕様設定にあたっては、既存図書館システムの具体的な機能把握が不可欠なことから、十分な調査をすること（研究計画4、5）。

また、後半のプロトタイプシステムの開発については、来年3月末の期限で完成できるかどうか。もし必要ならば研究期間の次年度への延長も可能であるので研究助成委員会に相談すること。

テ - マ：図書館評価 LibQUAL + ®の日本における実施展開

種 別：機関研究

研究代表者：市 古 みどり（慶應義塾大学）

共同研究者：酒井由紀子・村上篤太郎（慶應義塾大学）

研究期間：2006年11月～2008年3月（2年間）

申請金額：38万円（2006年度）、60万円（2007年度）

[審査結果]

1. 研究助成の採否

研究助成対象として採択する。

2. 研究助成金

所要経費のうち、LibQUAL 登録料と分析料は、研究に対する直接経費とは認められない。

従って、2006年度助成額は3万円（日本語翻訳費用）とする。

ただし、調査分析結果を活用して研究・公開等を計画されておられるので、そのための必要経費は助成対象となるため、一度勘案されて、追加の費用があれば、計画書の再提出をすること。

その場合は、既に提出されている申込書の8. 所要経費概要（本紙および別紙）を訂正いただき、第二次募集期間内に提出すること。

3. コメント

LibQUAL を紹介し、その調査の実際とその有効性の確認は、日本の図書館にとって大変有意義で先駆的な試みとして評価する。

(2) 2007年度対象

テ - マ：実績（量・質）評価可能な業務委託仕様書および数値化を伴う実績評価方法モデル作成の可能性について

種 別：課題研究

応募者：伊藤秀弥・塩野博雄（立教大学図書館）

研究期間：2007年4月1日～2008年3月31日

申請金額：60万円

[審査結果]

1. 研究助成の採否

研究助成対象として採択する。

2. 研究助成金

申請額60万円交付。

3. コメント

本研究は、課題研究のテーマである「管理・運営」に合致し、調査結果やモデルの提示が大変有用と期待される。

ただし、実態調査が全国にわたり、1年間で調査が完了できるのかを危惧する声もあり、慎重に計画を遂行されることを望む。

委員長からの報告、提案について質疑応答の後、提案どおり了承された。

なお、それぞれ審査結果を申込者に通知すると共に、についてはレンタル（リース）の可否について確認する。については、追加申込みがあれば改めて第二次募集で審査することになった。

この後の処理については、研究助成員会に一任することになった。

6. ホームページ委員会の構成について

会長校龍谷大学（寺本）から、配布資料（p.35～39）ホームページ委員会より、ホームページ委員会の委員構成について提案が出されているので協議したい、との提案があった。

ホームページ委員会からの提案要旨は以下のとおり。

委員会の構成および委員の役割の確認

委員を現行の7名から11名に増員したい。その主たる理由は、西地区部会が5地区協議会に分かれて組織されていることから、各地区協議会から委員を出すことにより、協会ホームページの運営と共に各地区協議会のホームページの充実を図りたい。

次期委員の構成は以下のとおり。

ア. 東地区部会 5名

（ア）会長校から1名

（イ）部会長校から各1名

（ウ）東地区部会研究部担当理事校から1名

（エ）東地区部会監事校から1名

(オ) 上記(イ)(ウ)(エ)以外から1名

イ. 西地区部会 6名

(ア) 部会長校から1名

(イ) 西地区部会各地区協議会から各1名

次期以降、会長校が西地区部会から選出の場合の委員構成は、次期委員会で検討する。

協会ホームページ委員会の提案について、種々、協議の結果、2005年度より協会ホームページ起ち上げが完了したということで現行体制に変更したばかりであるが、今後、ホームページ活用の重要から、提案どおり承認された。

7. 次期委員会委員について

会長校龍谷大学(寺本)から、次期委員会委員の選出方法について、配布資料(p.40~43)に基づき説明および提案があった。

提案の要旨は以下のとおり。

協会の4委員会については、各委員会に次期委員の推薦を依頼しているので、一部委員の名前が上がっているが、各委員会からの推薦を待ち、名前が出揃ったら次回東西合同役員会に提案したい。

国公立大学図書館協力委員会関係の諸委員会委員は、役員校の充て職になっている委員会(協力委員会委員館、大学図書館協力ニュース編集委員会編集委員)は、次期役員校に願います。それ以外の委員会委員については、国公立協力委員会常任幹事館の早稲田大学を中心に相談して人選を進めたい。

日本図書館協会関係の役員、委員については、前回の常任幹事会で確認されているとおりの役割分担としたい。

国立情報学研究所運営委員については、年度内に運営委員会開催されると予想されるので、次年度以降の運営について確認したうえで人選を行う。

会長校からの提案について種々、協議の結果、提案どおり了承され、役員校でも人選を始めることになった。

8. その他

(1) 協会ホームページのサイトポリシーについて

会長校龍谷大学(甲野)より、ホームページの活用策の一環として研究成果をホームページ上で公開するということが検討されているが、その際にホームページ運営上のサイトポリシーが現在、ホームページ委員会で検

討されている。

本日の幹事会に間に合う予定であったが、まだ、検討が続いているので、次回東西合同役員会に提案したい、との提案があり異議無く了承された。

(2) IFLAからの次期会長、理事会メンバー、運営委員の推薦依頼の取り扱いについて

会長校龍谷大学(甲野)から、IFLAより次期役員の推薦依頼がきているので、この取り扱いについて協議願いたい、との提案があった。

会長校の提案について、早稲田大学の中元氏より、本協会がIFLAに加盟した経緯(ちなみに、国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協会は加盟していない)と、併せて、本協会とIFLAが共同行動をすることは殆ど無いこと等が説明された。

種々協議の結果、本協会としてIFLAの役員を推薦しないことになった。

[懇談事項]

1. 2011～2012年度会長校について

会長校龍谷大学(寺本)より、配布資料(p.45)に基づき、立教大学から駒澤大学に2011～2012年度の会長校を引き受ける旨の回答があった。

2013～2014年度は西地区部会から会長校を出すことになるので、西地区部会で検討することにした、との報告があった。

会長校龍谷大学松井センター長より、本日の2006年度第2回常任幹事会の議事は無事全てを終了した。次期会長校の中央大学および各役員校の協力を感謝する。との挨拶の後、閉会した。

以上

2006年度 第2回 常任幹事会出席者名簿(2006.12.1)

役員校	大学名	職名	氏名
会長校	龍谷大学	センター長 事務部長 深草図書館課長 [事務局] [事務局]	松井賢一 寺本憲夫 甲野浩史 久世正友 中崎憲和
東地区部会長校	駒澤大学	図書館長 運営課長 運営課長補佐 情報企画係長	松村格 奈良田忠 鈴木大然 秋沢久美子
西地区部会長校	久留米大学	図書館長 課長 係長	西土純一 熊谷まゆみ 北村泰治
東地区監事校	早稲田大学	総務課長	中元誠
西地区監事校	南山大学	課長	栗山義久
次期会長校	中央大学	事務部長 総務課長 副課長	富田和正 荒木康裕 工藤邦弘